

これからの大学を考える

—例えば、20年後の早稲田大学では—

開倫塾

塾長 林 明夫

Q：高校生ならともかく、小学生や中学生、その保護者の皆様も「これからの大学を考える」ことが必要なのですか。

A：(林明夫：以下省略)

(1) 現在は、8割近くの方が高校を卒業後に「高等教育機関」と言われる大学や短期大学、専門学校、専修学校に進学します。また、高校卒業後に就職する方々の多くも、仕事に就いてしばらくしてから大学などに進学する場合があります。

(2) ですから、たとえ現在は小学生、中学生であっても、自分たちが高校卒業後に進学する大学について考えておくことが大切です。まして高校生の皆様は、何年か後には大学生になっているのですから、本気で「これからの大学を考える」ことが求められます。

Q：例えば、早稲田大学は「これからの大学」をどのように考えていますか。

A：2012年に創立130年を迎えた早稲田大学は、150周年を迎える20年後の2032年までの大学としての挑戦課題を「WASEDA VISION(ワセダ・ビジョン)150」としてまとめ上げ、公表しました。その内容は驚くべきものです。

(1) 大学1年生から4年生までの学部の学生数を現在の44000名から35000名とし、9000名減らす。

(2) そのかわりに、大学院の院生数を現在の約9000名から15000名とし、6000名増やす。

(3) 外国人学生、つまり外国からの留学生数を現在の4300名から10000名とし、5700名増やす。

*つまり、早稲田大学は2032年までに大学生と大学院生の合計数を50000名にし、そのうちの2割にあたる10000名を外国からの留学生とするということです。これは、5人に1人は外国人という中で学ぶことを意味します。

(4) 外国語による授業は、現在は学部では6%、大学院では9%行われているのを、学部、大学院ともに50%にする。

*つまり、授業の半分以上は、日本語ではなく、英語をはじめとする外国語で行われるということです。

(5) 早稲田大学から海外に派遣する留学生は、現在の2400名から全学生とする。

*つまり、早稲田大学に入学したら、全学生が卒業するまでに1回以上は海外に留学するということです。

(6) 対話型、問題発見・解決型授業は、現在は学部では29%、大学院では55%行われていますが、これを学部で75%、大学院で80%にする。

*つまり、先生がほぼ一方的に語りかけるような授業は大幅に減り、対話型、問題発見・解決型の授業が大半となるということです。

(7) 授業内容のインターネット等による公開率は現在0.3%ですが、これを100%にする。

*つまり、授業はすべてインターネットで在学生のみならず、早稲田大学の卒業生や一般社会におそらく無料で公開されます。

(8) 大学公開講座、つまり社会人教育、イクステンションの受講生数は、現在の35000名を50000

名とする。

*つまり、早稲田大学は、大学生 35000 名、大学院生 15000 名、大学公開授業聴講生 50000 名と、合計 100000 名の学生を教育しようと計画しているということです。

(9)早稲田大学が目指すのは、「世界に貢献する高い志を持った 100000 名の学生の教育」だと私は考えます。

Q：このような大学を目指すのは、早稲田大学だけですか。

A：(1)違います。日本にあるありとあらゆる大学、大学院、短期大学、専門学校、専修学校は、早稲田大学と同じくらいの熱心さで、もしかしたらそれ以上の熱心さで「地域社会や日本、世界に貢献する高い志を持った学生の教育」に向けての取り組みを行おうとしています。

(2)私の母校である慶應義塾大学でも、また、私が客員教授をしている宇都宮大学でも、11 月に訪問した上智大学や東京理科大学、12 月に訪問した神戸大学や東京大学でも、早稲田大学と同様の、もしかしたらもっと熱心な取り組みが見られます。

(3)現在の小学生、中学生、高校生である塾生の皆様が高校を卒業後に進学する大学、短期大学、専門学校、専修学校、さらには、大学を卒業後に進学する大学院(大学院には条件さえ充たせば大学を卒業しなくても入学できます)は、これから数年で大きく変化します。新聞の教育欄には大学についての記事が週に 1 回以上は出ていますので、注意して読んで、自分が将来進学する大学について考えてくださいね。

Q：何について考えたらよいのですか。

A：(1)私がお願いしたいのは、これからの大学に進学した後に困らないようにするには、小学生、中学生、高校生のうちからどうしたらよいかを考えてくださいということです。

(2)例えば、多くの大学では、早稲田大学と同じように英語をはじめとする外国語での授業が半分以上あるのですから、英語の勉強は大切。また、授業の 100 %がインターネットで公開されるのですから、IT のスキルは大切。外国人留学生が 5 人に 1 人の割合でいて、全学生が在学中に一度は外国に留学するのですから、外国の文化や地理、歴史を学ぶことは大切。それにもまして、我が祖国、日本について学ぶことは最も大切です。

(3)対話型、問題発見・解決型授業に参加するためには、全教科の学習に加えて、古典を中心とする幅広い読書で教養を身に付け、自分の考えをしっかりと持った上で、何紙かの新聞をなめるように読んで現代社会の課題を正確に認識することが求められます。

(4)学習の仕方を身に付けることは欠かせません。

Q：何だか、いつも塾長が言っていることと同じですね。

A：①「自覚を持つこと」、②「学習の仕方を身に付けること」、③「読書により思慮深さを身に付けること」、④「新聞を読み自分で考える力、批判的思考能力を身に付けること」、具体的には⑤「理解」→「定着」→「応用」の「学習の 3 段階理論を身に付けること」。この①～⑤は、実は、これからの大学、これからの社会で学ぶ基本をまとめたものなのです。この「学習の 3 段階理論」は小学校、中学校、高校で学力を身に付けて成績を上げるのに役立ちますが、もっと役に立つのは大学や大学院、最も役に立つのは社会に出てからです。

開倫塾が塾生や保護者、地域社会の皆様にお伝えしたいのは、自己学習能力の育成の具体的方法です。是非、自己学習能力を一日も早く身に付け、一生涯どんどん活用してくださいね。

(宇都宮大学大学院工学研究科 客員教授)

— 2013 年 12 月 9 日記 —